

薫（作編曲家、箏奏者、ギタリスト）



京都市出身。

立命館大学文学部文学科日本文学専攻卒業。

幼少期よりバッハ協会会長である大浦新三氏にチェンバロ・クラヴィコードを師事。また、オーストリア政府よりオーストリア科学技術功労賞、マンハイム大学より名誉教授の称号を授与されているパウル・バドゥラ＝スコダ氏に作曲・クラシックピアノを師事する。幼い時分に自身の作曲スタイルをこの時期に確立させた。

立命館大学在学中に古文化保存協会会員として、大徳寺黄梅院、真珠庵、弧篷庵等の非公開寺院特別拝観ガイド・文化財保全活動を4年間務めた経験を持つ。

現在は箏のみならず、ギター、ベース、ドラム、シンセサイザー、ピアノ、DTMまで携わるマルチプレイヤーである。その音楽性をもって、仏教の声明からポピュラーミュージックまで幅広いカテゴリーで、幼少よりのクラシック音楽、ロックバンド等の様式を踏まえた上で作曲、アレンジ、プロデュース等の活動を展開。

箏をバンドやポピュラーミュージックに取り入れ、日本文化を海外の方や若い層に広く分かりやすく発信すべく、ロックバンドと共存可能な箏の音響システムを関西で初めて開発。平安貴族が愛した日本的美の一つである『雅（みやび）』を、現代の時流を見据えた上で、如何に楽曲として構築、発信するかを意識している。

また、次代の伝統音楽を担う虚無僧尺八や津軽三味線奏者とも密接なタイアップを実施。音響的・文化的にも重厚なコラボレーションを実現。西日本を中心にイベントステージコーディネーターとしても多くのキャリアを積んでいる。

2018年より2020年までESPエンタテインメント大阪校和楽器スペシャルセミナー特別講師を務める。同プロジェクトリーダー。Neo-Japanesque band 『凜ひとえ』代表、サウンドスケープデザインチーム『薫風-kunPu-』代表。